



Title	外国語ブレンディッドラーニングにおける効果的な動機づけ方略に関する研究 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	李, 在栄
Citation	北海道大学. 博士(国際広報メディア) 甲第11426号
Issue Date	2014-03-25
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/55406
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Zairong_Li_review.pdf (「審査の要旨」)



[Instructions for use](#)

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（国際広報メディア）

氏名：李 在 栄

	主査	教授	伊	藤	直	哉
審査委員	副査	准教授	田	邊	鉄	
	副査	准教授	辻	本	篤	

学位論文題名

外国語ブレンディッドラーニングにおける効果的な動機づけ方略に関する研究

本研究は、動機づけ理論、特に自己決定理論の知見を基盤に、学習者一人ひとりの動機付けを高めることを目指した個人差手法に着目し、外国語ブレンディッド授業の現状調査、動機づけ方略の設計、授業の実施検証等、一連の体系的な研究過程を通じて、学習者の動機付け向上方略を検証した教育学論文である。本研究の特徴は、Bersin(2004)で示されたメディア別学習活動一覧表にあたる項目を、動機づけとその要因の状態変化を測定し、学習活動別の効果を測定していることにある。

本研究は、まず、2010年度北海道大学全学教育外国語科目フランス語の全学生を対象に、内的動機づけに関する予備調査を行い、現状における問題点の分析抽出を試みている。引き続き2011年度の授業においては、前年度に有意な降下が観察された動機づけにおける心理欲求「関係性」の向上を目指し、メール等による教育介入が設計開発され、実施された。その結果、TAとの関係性項目の向上により、内的動機づけの有意な向上が観察された。本研究においては、以上の実験的授業運営管理の結果として、外国語教育におけるブレンディッドラーニングにおける教育活動別内的動機づけ向上のための指針、及び教育介入方法の提案がなされている。内的動機づけ研究において個人差を考慮した動機づけ研究が一般的になる中、ICT手法を駆使した教育学アプローチからの本研究の提案は、今後の研究動向に対して、新たな方向性を提示している意義は大きいものと思われる。

本論文の構成は、以下のような全七章の構成でまとめられている。まず第1章「序論」では、本研究の背景と目的、および研究の位置づけについて述べられる。第2章「研究の視点に係る先行研究」では、ICTを活用した学習形態、外国語学習におけるICTの活用、外国語学習における動機づけ理論及び動機づけ研究の位置づけに関する考察等、本研究の視点から先行研究が概観されている。第3章「研究方法」では、先行研究における方法論の長短所を概観した上で、本研究で実施される方法論の検討、調査票の作成及びその妥当性について考察されている。第4章「現

状調査」では、2010年度のブレンディッド授業の実施において、各心理欲求の充足状況、動機づけの向上状況、また各学習活動が心理欲求の充足へ果たした役割分析等を全体と個人差の観点から調査され、これらの結果の考察により、既存授業に対する改善点の模索が検討されている。第5章「動機づけ方略の開発」では、前章の結果を踏まえ、特に関係性を中心とした心理欲求充足を促す学習活動の形態、自律学習の特徴、TA活動の可能性等を考慮し、ICT機能を活かした学習履歴に基づく個人差対応型学習介入活動の設計が行われている。第6章「動機づけ方略の効果検証」では、前章で設計した動機づけ方略を1学期間実施し、心理欲求充足への効果を検証している。最後に第7章「結び」においては、本研究のまとめ、今後のブレンディッド学習への示唆、課題が議論されている。

このような論文内容に関し、審査委員会から提出された主要な議論は、今後の外国語e-learningにおけるTA活用の可能性と限界に関しての議論であった。本研究は、当該外国語に関する知識を持ち合わせていないTAによる可能性と限界の追及に関する研究という側面を有していたが、学習支援や動機づけ維持向上に関するTAの役割はまだ開発可能性が残っており、本論文筆者を含め、今後の研究進展とともに、TAのFD化を一層推進する必要性に関して合意された。本研究は、1. 動機づけ個人差研究の流れにおいてICT活用の一つの可能性を提示した点、2. 一つひとつの教育活動と動機づけの関連を丁寧に分析した点、3. 今後のブレンディッド学習におけるTA研究の視点を開いた点等が評価された。

以上のような議論経緯を踏まえ、審査委員会内で慎重な議論を行った結果、本研究の学問的新規性、統計的データ処理の適切性、研究成果の今後の進展可能性等を考慮し、北海道大学博士の学位に相応しい研究内容であると審査委員会全員一致で判断した。よって、本研究著者は、北海道大学博士（国際広報メディア学）の学位を授与される資格が十二分にあることを、本審査委員会は認めるものとする。